＜様式 6-5 学校教育活動支援事業成果報告書＞

【活動の主題】　スピードに乗って、リズムよく跳び越そう（ハードル走）・くるくる回ろう鉄棒運動
【副題】

【学校名】　大津市立雄琴小学校

１　本校の概要

滋賀県の湖西地域の小高い山の上に位置している。児童数は２１３人。多くの学年は１学級の単級である。

児童は素朴で人懐こい。多くの児童は自分に自信がなく、初めてのことや、難しいと感じたことに対しては挑戦することができない。そのため学習や運動に対しても消極的で、できることだけをくり返すばかりで、多くの場面で成長が見られないことがある。

２　取り組んだ内容

（1）スピードに乗って、リズムよく跳び越そう

高学年の陸上運動で、走ることは好きだがハードルがあることで体の動かし方や、ハードル間の歩数など、いろいろ考えながら取り組むことが増える。このことによって、初めてのことに挑戦することが苦手な本校の児童が、体を動かすことの気持ちよさやリズムよく跳び越すことの面白さを経験する中で体育や陸上運動を好きになってくれることをねらう。

（2）くるくる回ろう鉄棒運動

体育科の授業の中で、多くの児童が抵抗感を感じる運動のひとつに「鉄棒」が挙げられる。球技が得意なのに鉄棒となると全くできない児童や、腕の力で体重を支え切れない児童、頭が下になることを恐れる児童など、鉄棒を敬遠する理由はさまざまである。しかし、児童から最も敬遠される理由は「おなかが痛くなるから」ということである。これを克服するために授業に鉄棒補助パッドを用いて鉄棒に対するイメージを好転させることをねらう。

３　活動の成果

（1）スピードに乗って、リズムよく跳び越そう

今回の支援事業でハードルを買い足した結果、練習コースが増え、児童どもたちの練習量や運動量が十分に確保できた。また、一人一台のタブレット端末を活用して、自分の跳び越し方をその場で確認したり、友だちに対してアドバイスしたりすることができた。

なかなか思うように記録を伸ばすことができなかった児童もいたが、多くの児童がくり返しくり返しひたむきに走る姿が見られたことは、本校にとって次につながる良い成果であったと思われる。

（2）くるくる回ろう鉄棒運動

鉄棒運動は、できるだけ小さい学年から始めた方が運動に親しめると考え取り組みを進めた。始めは扱いにくそうだったが、慣れてくると「おなかが痛くない」ことに気づくと同時に、くるっと回れる！となった。実体験からの学びは、意欲面に大きく影響し次々に前回りができるようになった。

児童からの要望もあり、休み時間にも貸し出しを行うようにした。自分たちで使い方を覚え、きちんと返却することも、学びの一つとなった。

（3）最後に

今回の支援事業によって、本校児童の抱える課題の一部は克服に向かうことができた。環境が整ったことも要因だと考えるが、何より児童が、自分自身の運動をふりかえることの大切さを学び、記録の更新に挑む姿を養えたこと。また、低学年児童は運動の楽しさを十分に味わえたからだと考えられる。

このような児童の姿の変容を見た本校教員が、さらなる工夫を凝らして児童の可能性を広げてくれることを願う。